

国語 第5学年 言葉について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：同じ内容でも相手や場面によって適した言い方が異なることを確かめ、伝えたい意図に合う語句を選ぶ。丁寧な語に機械的に替えるだけにせず、相手がどう受け取るかを実際の場面で考える。B(1)ウの学習として、言葉の使い分けカード。同じ用件について相手の違う文を作り、変えた語句とその理由を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、相手と目的に合う語句を選び、意図が伝わるように文の書き表し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：言葉の使い分けカードを残す。同じ用件について相手の違う文を作り、変えた語句とその理由を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：丁寧で長ければよいと判断する。似た語句をどの場面でも同じ意味と考える。これについて、相手・目的・場面を示した教師作成の例を比べる。言葉を選ぶ理由を、語の難しさではなく受け取り方から説明させる。児童の家庭の言葉や方言を低く評価しない。〔知識及び技能〕(1)ア・〔知識及び技能〕(1)オとB(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「同じお願いを伝えるなら、この相手にはどの言葉を選びますか。言い方を変えると、受け取り方はどう変わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：言葉の使い分けカードは紙に記録できる。同じ用件について相手の違う文を作り、変えた語句とその理由を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：いつも敬語にすればよいのか。

返し：〔知識及び技能〕(1)ア・オとB(1)ウでは、相手との関係と意図を考える。どの場面にも唯一の正解を当てず、相手に失礼にならず意図が伝わるかを理由付きで検討する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「同じお願いを伝えるなら、この相手にはどの言葉を選びますか。言い方を変えると、受け取り方はどう変わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

